

平成 30 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2018

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジア II 講座・准教授
氏名 Name	宮脇聡史
専門分野 Academic Field	フィリピン地域研究、宗教社会学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	フィリピンのカトリック教会、政治、性・家族・生殖
<p>2006 年に提出した博士論文に基づく出版については、年度初めに集中して手直しをした原稿を「平成 30 年度大阪大学教員出版支援制度」に応募したところ、審査の上出版が決まった。年度末には再度大幅な改訂を加えて一度入稿した。</p> <p>憑依をめぐる報道についての研究ノートを手直し、『言語文化研究』で出版することができた。過去 2 年の共同科研の発表成果については、これまで執筆したものに手を加え、今後の論文集の刊行に備えてきた。フィリピン関係の学会、研究会がふたつあり、「フィリピン研究会全国フォーラム」ではフィリピンにおける「社会的なもの」をめぐるパネルのコメンテーターとして、もう「国際フィリピン学会東アジア大会」では民主化後のフィリピン教会の現在までの経緯をめぐる発表者として参加した。</p> <p>過去数年をかけて共同執筆した『はじめての東南アジア政治』が 11 月に出版され、教養の授業で教科書として活用した。フィリピンの政治社会について、また私自身のこれまでの研究について、東南アジア大の視点から、また諸国、諸地域、さまざまなケーススタディとの比較の視点から吟味しなおす多くの機会を得た、極めて触発的なプロジェクトに参加できたことは、とても実り多い経験であった。</p> <p>フィリピン・カトリック教会のフィリピン国家や国民に対する独自のナショナリズムの形成過程と構造を追った博士論文が出版によって区切りがつきつつあるので、近年積み重ねてきた研究の方向性のシフトをより明確なものにする努力を始めている。平成 30 年度はフィリピン地域と宗教について、国際レベル、ナショナルレベル、地域レベル、運動体レベルなどを、社会と教会の両方についてより重層的にとらえ、また構造よりも変化のダイナミクスを捉える方向にシフトして資料や文献を見直し、それに基づいて科研の申請も行った。</p>	